

科学研究費助成事業（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	19677001	研究期間	平成19年度～平成24年度
研究課題名	CLEペプチドをモデルとした植物モルフォゲンの進化と作用機構に関する研究	研究代表者 (所属・職)	澤 進一郎（東京大学・大学院理学系研究科・准教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、多細胞植物の空間認識機構を解明することを目指している。そのために、CLEペプチドホルモンの生成・細胞間移動・受容後のシグナル伝達を分子解析するとともに、その分子進化や機能進化も包括的に解析し、このホルモンが植物モルフォゲンとして働くか否かを明らかにしようとしている。</p> <p>その結果、CLEペプチドホルモンの生成から受容後に至るまでについては、新規因子や突然変異体の同定、糖鎖修飾の必要性の発見、新しい実験・解析系の確立など、研究の進展は極めて順調といえる。成果発表も妥当である。</p> <p>しかし、その一方で、ゼニゴケ等への積極的取り組みは評価されるが、ペプチドホルモンの進化に関する研究は今後の課題として残されている。それとともに、本研究の肝であるモルフォゲンとしての性質に関する研究に焦点を当てることを期待したい。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果と比べ、期待した成果が上がらなかった。
B	<p>本研究は、CLEペプチドホルモンに関する包括的な研究である。研究計画の主要項目である変異体の単離と解析においては、原因遺伝子の新しい同定法の開発も含め順調に推移し、新規知見につながる遺伝子が多数明らかにされた。この点は高く評価される。ただし、これに関する多くの成果が未発表のようであるので、早期の論文発表が望まれる。一方、CLEペプチドの構造や動態、あるいは進化に関する研究については、成果報告書に具体的な成果が示されておらず、期待した成果が上がっていないと判断せざるを得ない。</p>